

めぐみイエス・キリスト教会

2022年5月22日(日) 第四主日礼拝
週報「通算第609号」



2022年標題聖句

第 I テモテへの手紙御6章17節～19節

《高慢にならず、頼りにならない富にではなく、むしろ、私たちにすべての物を豊かに与えて楽しませて下さる神に望みを置き、善を行ない、立派な行ないに富み、惜しみなく施し、喜んで分け与え、来たるべき世において立派な土台となるものを自分自身のために蓄え、まことのいのちを得るように命じなさい。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

| | | |
|--------|-----------------------------|--------|
| 【前奏祈祷】 | | |
| 【賛美Ⅰ】 | 新聖歌458「光の高地に」 | p. 734 |
| 【交読文】 | No.19 詩篇第51篇(抜粋) | p. 893 |
| 【賛美Ⅱ】 | 新聖歌505「主われを愛す」 | p. 807 |
| 【使徒信条】 | | |
| 【主の祈り】 | | |
| 【先週説教】 | | |
| 【賛美Ⅲ】 | オリジナル曲No.16「ラッパを吹き鳴らせ」 | |
| 【聖書朗読】 | 使徒の働き16章35節～40節(新約p. 269上段) | |
| 【礼拝説教】 | 《入獄の結末》 | |
| 【聖餐式】 | | |
| 【賛美Ⅳ】 | 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 | p. 235 |
| 【平和祈り】 | | |
| 【頌 栄】 | 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 | p. 85 |
| 【祝祷後奏】 | | |

※本日の聖書箇所(使徒の働き16章35節～40節)

16:35 夜が明けると、長官たちは警吏たちを遣わして、「あの者たちを釈放せよ」と言った。

16:36 そこで、看守はこの言葉をパウロに伝えて、「長官たちが、あなたがたを釈放するようにと、使いをよこしました。さあ牢を出て、安心してお行きください」と言った。

16:37 しかし、パウロは警吏たちに言った。「長官たちは、ローマ市民である私たちを、有罪判決を受けていないのに公衆の前でむち打ち、牢に入れました。それなのに、今ひそかに私たちを去らせるのですか。それはいけない。彼ら自身が来て、私たちを外に出すべきです。」

16:38 警吏たちは、この言葉を長官たちに報告した。すると長官たちは、

二人がローマ市民であると聞いて恐れ、

16:39 自分たちで出向いて来て、二人をなだめた。そして牢から外に出し、町から立ち去るように頼んだ。

16:40 牢を出た二人はリディアの家に行った。そして兄弟たちに会い、彼らを励ましてから立ち去った。

●ポイント1. 「牢獄において起こった出来事」とは？

※使徒の働き16章29節～34節「牢獄におけるリバイバル」 (新約p.268)

16:29 看守は明かりを求めてから、牢の中に駆け込み、震えながらパウロとシラスの前にひれ伏した。

16:30 そして二人を外に連れ出して、「先生方。救われるためには、何をしなければなりませんか」と言った。

16:31 二人は言った。「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます。」

16:32 そして、彼と彼の家にいる者全員に、主の言葉を語った。

16:33 看守はその夜、時を移さず二人を引き取り、打ち傷を洗った。そして、彼とその家の者全員が、すぐにバプテスマを受けた。

16:34 それから二人を家に案内して、食事のもてなしをし、神を信じたことを全家族とともに心から喜んだ。

●ポイント2. 「ローマ市民(ローマイオス)」とは？

もともと貴族に限られていたローマ市民権は、紀元前337年には一般市民にも与えられるようになった。パウロの時代、市民は投票、士官、判事の判決に反対して、皇帝に告訴する権利が与えられていた。この市民権は、皇帝によって富者や相当の社会的地位のある者に授けられた。

●ポイント3. 「リディアの家における再会」から生まれたものとは？

※ピリピ人への手紙4章4節「使徒パウロの勧めから」 (新約p.399下段)

4:4 いつも主にあって喜びなさい。もう一度言います。喜びなさい。

※第 I テサロニケ5章16節～18節「神様が望むこと」 (新約p.413上段左)

◎先週の礼拝メッセージの概要【ピリピの牢獄の看守】

《パウロとシラスは捕らえられ、長官たちは、むち打ちを命じます。この時、なぜ二人はローマ市民であることを申し出なかったのでしょうか。もし長官たちがその事実を知ったなら、当然裁判が開かれたはずですし、数日は監禁され、そして釈放されたに違いありません。そうしますと、二人は牢獄には入らないことになります。しかし入獄こそが、神様のご計画であったことなのです。二人はむち打たれた後、牢獄の看守の手に渡されます。背中への傷は重傷で、到底激痛で寝られるはずなどありません。しかし、二人は不平不満を言わず祈り、神様を賛美していたのです。なぜなら、二人には確信があったからです。

それは、パウロが見た「マケドニア人」の幻のことです。この確信があったからこそ、夜中に彼らは祈り、神様を賛美できたのです。

さて、この時ルカは牢獄にはおりません。彼は神様の特別な計らいによって、捕縛を免れたのです。彼はパウロとシラスが捕らえられたことを、すぐにリディアに知らせます。そして、生まれたばかりのピリピ教会は、ルカの指導のもとに熱心に祈りを捧げます。すると、真夜中に大きな地震が起こって、牢獄の土台が揺れ動き、扉が全部開いて、すべての囚人の鎖が外れてしまいます。看守は、囚人たちが逃げてしまったものと思い、剣を抜いて自殺しようとしています。その時、「自害してはいけません。私たちはみなここにいる」と、声が響きます。「先生方。救われるためには、何をしなければなりませんか」

「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたも家族も救われます。」

パウロとシラスを通して、牢獄に属する者たちが、皆救われます。また看守が自分の家に二人を案内し、看守の家族も皆救われます。後に、リディアの家と、看守の家がピリピ教会になって行きます。これこそが、パウロとシラスを用いて、神様のご計画されたことなのです。》

◎お知らせ

※5月29日(日)の第五主日礼拝は、通常通り午前10時からです。また、6月5日第一主日礼拝は、ペンテコステ記念礼拝となります